

令和五年度 九州歯科大学歯学部 大学院入学式

式辞

本日、希望に満ちあふれる新入生の皆さんを九州歯科大学に迎えることができ、この上もない喜びを感じております。歯学部歯学科、口腔保健学科及び大学院歯学研究科に入学した皆さんに、九州歯科大学の教職員を代表して、ようこそ九州歯科大学へという歓迎の言葉を贈ります。

今年度の入学式も、COVID-19 禍中ということを鑑み、「新たな生活様式」のもとでの「密閉、密集、密接」いわゆる三密回避に配慮した式次第で執り行います。そのようななか、本日、ここに、服部誠太郎福岡県知事及び桐明和久(きりあけ かずひさ)福岡県議会議長のご出席を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。一方、COVID-19 の現況を鑑み、来賓各位ならびに保護者の皆さまに対しては、ご臨席のご案内を控えさせていただき、オンラインでご覧いただく環境を調えました。今年度は、直接、お祝いの言葉をお伝え出来ないもどかしさを感じるなかでは

ありますが、皆さまには、COVID-19に鑑み、ご理解いただければ幸甚に存じます。

さて、平成18年12月に交付・施工された教育基本法のもと、我が国の初等・中等教育においては、時代に即した学力を有する人材を育てることが求められ、それに準じて学習指導要領の改訂が進められてきました。その過程で、現在の教育における学力の三要素及びそれを総合するものとして「生きる力」が規定されています。学力の三要素のうち、要素1は、「社会の中で生活し働くための【知能・技能】」。要素2は、「知識・技能の上に築かれる【思考力・判断力・表現力】」、要素3は、これら二つの土台の上に成り立つ「学びを人生や社会に生かそうとする【主体性・多様性・協調性】」、という形で表現されています。

さて、このようなことを踏まえて、本日、歯学部に入學した新入生の皆さんにお願いです。諸君は、今、述べた学力の三要素に基づく本学のアドミッションポリシーを十分に理解し、将来歯科医療人として社会に貢献するという強い意志と高い志を持って、本學に入學したと信じています。これから先、九州歯科大学における大学生活において、本当の意味でのプロフェッションとして社会に貢献するという強い意志を持ち続け、主体的に日々の学修に励んでいただきたいと思っています。しかしながら、これ

までの初等・中等教育とは異なり、大学での高等教育では、初めて出会う学問に戸惑うことも多いかと思います。さらに、三年を超えるCOVID-19 禍中、オンライン教育も導入され、教育手法も変化しました。そのようななかであっても、君たちは、学びの三要素を歯科医学に応用している本学で、豊かな人間性を醸成し、それらをもって将来を切り開くという気概をもって、夢と希望を失うことなく、社会に貢献する歯科医療人を目指してください。

次に、大学院に入学する学生諸君に申し上げます。今後、歯学研究科における大学院生として、修士課程及び博士課程で研究生活を送ることになりますが、その際、「無知は罪悪である。その無知な状態から少しでも逃れて、物事を理解しよう、自然や社会に関連する科学、周囲の人や自分自身を理解しようということが知性なのだ」という言葉をしっかりと胸に刻み込んで、歯科医学に貢献する研究者として、生命科学における高度の研究能力ならびにその礎となるオーラルバイオサイエンスに関する豊かな学識を養ってください。さらに、本学は、福岡県が推進しているワンヘルス推進活動や福岡健康づくり県民会議に呼応した研究活動を展開しています。このように多様な研究を推進している本学において研究活動に邁進し、大学院修了時には、口腔保健を通じて国民・県民の健

康増進に貢献し、優秀な臨床医として、あるいは歯学を支える研究者として、医学分野の医療人とともに多職種連携という形で活躍することを強く願っています。

地域包括ケアシステムでは、医科と歯科が連携して、様々な疾病の重症化予防を通じて地域住民の健康長寿の延伸を目指すということが求められます。すでに、本学は、北九州市内の複数の医科総合病院と教育連携協定を結び、そのもとで学部学生の臨床臨地実習を展開しています。このような地域に根差した医科歯科連携教育は、まさに、我が国が推進する「地域包括ケアシステム」の構築に呼応するものです。21世紀の歯科医学を担う学生諸君には、先駆け的な教育を展開している本学で歯学教育を受け、歯科医療界のフロントランナーとして、public dentist、public dental hygienist の意識を涵養して、多面的に活躍することを切に願っています。

一方で、現在、台湾の高雄医科大学、台北医科大学、中山医学大学、タイのシーナカリンウイロート大学、ランシット大学、フィンランドのヘルシンキ大学など、海外の大学と教育連携協定を結び、学生と教員の連携を深める国際連携活動を行っています。この活動も年を重ねるごとに充実し、夏季休暇中に、多くの学部学生が本学の「九州歯科大学基金」を活

用して海外研修活動を行ってきました。しかしながら、世界レベルで猛威を奮うCOVID-19により状況が一変し、世界各国でパンデミックが発生し、ヒトの往来が大きく妨げられました。そのようななかであっても、Think globally、act locally(世界規模で考え、足元から行動せよ)の考えのもと国際教育連携活動を推進してきた本学としては、COVID-19の現況を適正にとらえ、毎年行ってきた学生の海外研修活動を通じて、国際連携活動を絶やすことなく継続する方法を模索しています。

むすびに、明日から大学で、夢と希望をもって、学修及び研究生活を送る新入生の皆さんに、明治から昭和にかけて、我が国の発展に尽くした著名な実業家である渋沢栄一氏の言葉を紹介します。曰く、「ただそれを知っただけでは上手くいかない。好きになればその道に向かって進む。もしそれを心から楽しむことが出来れば、いかなる困難にもくじけることなく進むことができるのだ。」。本日、この言葉を学問に置き換えて、学問に対して常に真摯に、高い志をもって、社会に貢献する人材となるまで、夢に向かって、楽しく取り組むことを心から念願して、私の式辞とします。

令和5年 4月5日

九州歯科大学

学長 西原 達次